# 「栄枯盛衰」

三野輪和篁　minoチャン　千葉県

## 作品解説

遠くに紫峰筑波山を眺める茨城県の涸沼。
過去の栄光を偲ばせる廃船が夕景の中に飛び込んできました。真っ赤に焼ける夕景を期待していたのですが、
夕陽が沈んだ後に勢いよく流れる空の雲が栄枯盛衰をより物語っているようでした。

## 自己紹介

初めてデジタル一眼レフカメラNIKON-D300を手にし写真の勉強を始めようとしている時にフォトアドバイスに出会い入会したのが2015年7月でした。写真のいろはも分からず開催される講座を次々に受講しながら少しずつ前に進むことが出来ました。またフォトデイズの皆さんの作品を毎日拝見することがとても役にたちました。今ではPD仲間との交流により撮影機会が増え、お互いが刺激し合いながら楽しい写真生活を送っています。
また地域の写真倶楽部にも入会してフォトアドバスと併せて勉強と交流を深めております。撮影は風景、花が多いですが年齢と共に体力、気力の低下は否めません、身体の動く限りシャッターを押し続けたいと思います。

## 展示会に向けて

第四回フォトアドバイス展示会の作品に選ばれて大変な喜びと共に驚いております。私の作品があの富士フイルムフォトサロンに展示されることはこの上ない栄誉であります。東京、大阪と巡回展示で多くの皆さんに見ていただけることを大変嬉しく思います。皆様からの貴重なアドバイスをよろしくお願いいたします。

# 「明鐘岬」

永美宏　クワイエットマン　千葉県

## 作品解説

ここは千葉県内房にある岬で、過去何度か訪れていますが今一つ納得できる作品を撮ることができませんでした。
このときは干潮のタイミングを見計らい、より海岸線に近い場所で迫力が感じられる構図を狙いました。
岩礁があることにより波が複雑に絡み合い海面の表情が刻一刻と変化し、一方で夕日が沈みゆく中、
波の動きに目を凝らしこれぞという瞬間を切り取りました。

## 自己紹介

私の写真歴は浅く、一眼レフカメラを初めて手にしたのは８年前です。そのときは軽い気持ちで始めたのですが、色々と撮っているうちに面白さを感じるようになり、より上手に撮りたいと思うようになりました。上達するためにどうしたらよいか思案していたときに、ふと目にしたのがフォトアドバイスです。最初は無料のメルマガ購読から始まり、２０１８年にメンバーとなり標準レンズ講座を受講しました。
その後もいくつかの講座を受講しましたが、提出作品で高い評価を受けたいという思いがモチベーションとなり、またプロの写真家である講師の方から直接指導を受けられたことで力がついたと実感してます。被写体は自然の風景や都会の風景が中心です。

## 展示会に向けて

以前から写真展の展示作品に選ばれることを一つの目標としてやってきましたが、４回目にして初めて選出され
念願が叶いました。大変光栄であると共に、身が引き締まる思いです。

# 「無限回廊」

関口達志　tsじじ　千葉県

## 作品解説

麻布台ヒルズ・ビル群の形状も面白いが、このモニュメントがライトアップされると面白さが光る。昨年訪れた時は完成していなかったが今年1月には出来上がり楽しいひと時を過ごせました。普段は画像処理（トリミング以外）はしないのですがホワイトバランスを3000Kにしてみたところ、宇宙の回廊に見えてきました。

## 自己紹介

写真歴はフィルム時代も入れれば60年位か、途中20年位のブランクが有ります。神社仏閣など建築物が好きです。
花も良く撮りますが名前も知らず花の特徴も知らずにダラダラと撮っています。見た通りに撮れれば嬉しいのですが、
ほとんど駄目ですね！画像処理等は、ほぼしません（出来ませんかな）。
セミリタイヤの身なのでのんびり楽しくやっています。

## 展示会に向けて

自分の写真が人前に出ることがほぼ無いので今回のチャンスを大事にしたいです。

# 「母の道楽」

鈴木修　シュウ　静岡県

## 作品解説

これは写真実践講座「身近な風景」で提出した作品です。多趣味で様々な習い事をしていた亡き母のかな文字の作品、木目込み人形、三味線のバチを並べて一枚に収めてみました。彼女の多趣味は飽き性の一面を表すものであり、新しい習い事を始めるたびに、家族は「次は何を始めた?」と半分呆れモードでいたものでした。しかしこうして並べて撮っているうちに、ひとつひとつのアイテムからそれぞれ当時の思い出が蘇ってきました。それまでは「母の道楽」と思っていたものが、少し大袈裟かもしれませんが「母の生きた証」のような気がしてきたのです。家族の思い出の一枚となったかもしれません。講座の提出作品なので、被写体の選定、アングル、光のあたり具合を考え、自分なりに追い込んだ一枚となりました。

## 自己紹介

2015年1月からフォトデイズに参加しています。カメラを趣味にしてから20年以上経ちますが、いまだに上達しないのが悩みの種。ふだんは風景を主に撮っていますが、最近は鉄道風景、お祭り、動体撮影、スナップ写真にも興味を持ちはじめ、マイペースで週末を中心に撮っています。フォトデイズのメンバーの方々の投稿写真を見ることで、刺激を受けています。

## 展示会に向けて

今回で3回目の出展をさせていただくことになり、大変嬉しく思います。多くの方にご覧いただけたら幸いです。

# 「八幡宮の夜空」

鷲田恵理　eriwashi　東京都

## 作品解説

２年前のフォトアドバイス写真展で受講生の方の星景写真を拝見し、自分もこんな作品が撮れるようになりたいと思い、星景講座を受講しました。撮影場所は、1627年建立の富岡八幡宮（深川八幡）です。江戸時代の人もこの場所で星が降るような夜空を眺めていたのかと思うと、時空を超えた不思議な気持ちになります。拙い星景写真ですが、お楽しみいただければ幸いです。

## 自己紹介

2020年3月にフォトデイズに入会し、たくさん講座を受講して来ました。よく撮る被写体は、お花、街歩きスナップ、星景、テーブルフォト、ポートレートなど様々なジャンルに挑戦中です。"飽きさせない" 講座を企画してくださる運営の方と、ご指導いただく先生方に感謝申し上げます。

## 展示会に向けて

第4回 フォトアドバイス写真展に選出いただき、ありがとうございます。とても光栄に思います。

# 「淡紅葉」

倉戸啓子　あけび　京都府

## 作品解説

これは「紅葉 RAW現像」講座の提出作品として撮りました。買い物帰りの遊歩道で色づききれない紅葉の一枝が夕暮れの光の中で淡い色合いの美しい姿で微笑んでくれました。往きも通った同じ道なのに帰り道のこの時だけほんの束の間見せてくれたと思えるこの姿がとても印象的で、微風にゆれる紅葉を夢中で何枚も何枚も撮りました。被写体との出会いも一期一会だと深く感じさせられたひとときでした。

## 自己紹介

小学生のとき　父のカメラを借りて　卒業の記念に友達を撮ったのが最初でした。その後は子どもの学校行事や旅先でのスナップを撮るくらいでしたが子ども達が成人して独り立ちしつれあいが旅立った後花や風景の写真を撮り始めました。そんな中で2016年からフォトデイズに仲間入りさせていただきました。ふだんは道端の草花や朝露の水滴や霜などの小さな世界をマクロレンズで追いかけています。最近は小鳥や星空にも興味が広がりました。旅先でまた身近なところで好きなものを撮りながらできるだけ長く写真を続けていけたらと思っています。

## 展示会に向けて

第4回フォトアドバイス写真展に出展させていただき光栄です。
自分の作品が大きくプリントされて多くの方に見ていただけるのは　とてもうれしいですし　また他の方の作品を拝見できるのも楽しみにしています。

# 「川崎スナップ」

志田裕幸　d.d.　神奈川県

## 作品解説

今年、川崎市政100週年です。
川崎市に住み始めて半世紀ほど、灰色の工場の街から、少し素敵なな街に変わりつつあります。

## 自己紹介

最近は、散歩や通勤中にスナップを撮ることが多くなりました。

## 展示会に向けて

自分の撮った写真をL版以上で見たことがありません。どんなふうに印刷されるのかとても楽しみです。
3回目の写真展行きましたが、とても素晴らしい作品ばかりでした。
今回、選出いただきありがとうございます。

# 「雪雀」

平井たき子　shamie　埼玉県

## 作品解説

今年も２月に雪が降りました。ダーリンの介護生活の中で、５分１０分の隙間を見つけての撮影でした。
じっと耐える姿が可愛くて胸がキュンとなりました。
現像のみでノートリミング、ノーレタッチです。

## 自己紹介

写真を趣味にしています。
普段は庭でのマクロ撮影や望遠での雀撮影を楽しんでいます。
ポートレートやテーブルフォトも大好きです。

## 展示会に向けて

写真展に参加出来て良かったです。沢山の方に見ていただけたら嬉しいです。

# 「雪の帰り道」

唐澤仁　じん　千葉県

## 作品解説

関東では珍しい大雪となった2月の初旬に住まいの近くの公園で撮影しました。
この日、昼過ぎ頃から小雪が舞い始めたので、私は雪の住宅街の風景を撮影しようと思いカメラを持って出かけました。歩いているうちに徐々に雪は大粒になっていきましたが、柔らかな光を含んだ雪の粒はとても明るく、その粒が空から降りしきる街の光景はとても綺麗でした。これをモノクロで捉えたいと考え、路地や樹木など、いろいろな被写体と組み合わせて撮りながら歩きました。この公園に着いたのは午後3時頃で、傘をさした女子中学生らがはしゃぎながら歩いていきました。雪が積もった公園の並木の中を歩く女子中学生らの姿は幻想的で、私は夢中でシャッターを切りました。

## 自己紹介

千葉県に住んでいる60代です。仕事を退職した時に新たな趣味として写真に取り組もうと考えたのですが、当時は新型コロナの流行が始まった時期で外出ができなかったため、オンラインで写真の勉強ができる場所を探し、フォトアドバイスに入りました。最初は露出やシャッタースピードの意味もほとんど理解していなかったです。
2020年9月に東村山市で開かれたフォトアドバイス講師の宇井眞紀子先生の写真展「アイヌ　100人のいま」を見て感動し、その指導を受けたいと思い、先生のモノクロ講座を受講。それ以後継続してモノクロ写真を撮っています。この写真も今年開かれたモノクロ講座の一環として撮ったもので、先生の指導を受けながらRAW現像をしています。
モノクロ以外では、花、ポートレート、風景などの撮影が好きです。

## 展示会に向けて

自分の写真が展示会に出るのは初めての経験です。自分なりに頑張って写真の勉強を続けてきたので、写真が展示されることになって感慨深く思っています。

# 「人気者」

堀尾好文　花鳥風月　愛知県

## 作品解説

サービス精神が旺盛なホッキョクグマの「ふぶき」。
観客が喜ぶことをよく知っています。この日も大勢の人たちに囲まれ、嬉しそうに遊んでいました。
水に潜ることは予想していませんでしたが、運よく良いポジションが空き、しばらく待っていると「アイコンタクト」で合図してくれました。そして潜って出て来てくれました。眩しい光を浴びた水しぶきの光景　最高の一枚が撮れました！

## 自己紹介

写真歴７年です。
街撮りで「人の営み」にかかわる被写体を探して、撮ることが好きです。何が撮りたいのか、自分にしか撮れない作品を目指して右往左往しています。写真も奥が深くて楽しいです。思うように撮れない毎日ですが、撮り続けていきたいと思っています。もしも写真に出会えてなかったら、きっと毎日が退屈していたことでしょう(笑)

## 展示会に向けて

作品を見ていただき、ありがとうございます。いつまでも初心者でありたいと思っています。自分のオリジナリティを大事にして、撮り続けることで表現力を豊かにしたいと思っています。そして、写真に撮り方の決まりはありませんので、自由に撮っていきますのでよろしくお願いいたします。

# 「沼のオーロラ」

高橋宏美　Hikarin　埼玉県

## 作品解説

青葉の頃、久しぶりの家族旅行で訪れた青沼。磐梯山の噴火によって作られた、五色沼湖沼群のひとつで、天候や季節、見る角度などによって、見える色が変わります。昨日も訪れた青沼に、朝もう一度来て、るり沼へと向かいながら、ふと振り返ると、抜群の透明度を誇る水の中にオーロラが見えました。この作品で初めてPMPをいただき、カメラを続けてもいいんだなと小さな自信を与えてくれた大事な写真をお披露目できて、とても嬉しく思います。

## 自己紹介

インスタグラムで出会ったPDの広告から無料メール講座を経て、令和２年に入会しました。
カメラは富士フイルムのX-S10を愛用しています。旅先での風景や季節の花を美しく残したくて練習を始めましたが、なかなか心に届く写真を撮るのは難しい…フルタイムでの仕事を退職したら、キャンピングカーで夕焼けや朝日に染まる景色を撮るのが夢です。

## 展示会に向けて

A2なんて大きなサイズにプリントするのも初めてで、どんなふうに皆様の目に写るのかヒヤヒヤドキドキですが、これからも楽しんで撮っていきます。

# 「春を告げる朝」

浦上岳志　うらうら　京都府

## 作品解説

私にとって、琵琶湖の春は、この黄色い色から始まります。ノウルシが、湖岸の湿地帯に現れ、その少しあとに桜の花、そして浜ダイコンの白い花へと続いていきます。ノウルシは、環境省のレッドリストに登録される準絶滅危惧種です。
今年は、琵琶湖のあちらこちらの湖岸で見ることができました。うれしくなってきます。さぁ、琵琶湖の春の始まりです。

## 自己紹介

PHOTODAYSに入会と同時に写真を撮り始め、早や7年が経ちました。京都、滋賀、奈良の自然風景をもっぱら撮影しています。少しでも、見ていただく人の心に触れるような写真を撮れるようになりたいと心掛けています。

## 展示会に向けて

PHOTODAYS 写真展に出展することができ、とても光栄です。
これも、フォトアドバイスの先生方や仲間の皆さんのお陰です。本当にありがとうございます。

# 「思い出の公園」

徳永 郁代 toku　東 京 都

## 作品解説

まだ娘が小さかったころ、兄一家と今は亡き父親と一緒にバーベキューをした思い出の場所です。あれから４０数年経ち、写真を趣味にするようになった今、桜スポットを検索していてたまたま見つけた撮影スポットですが、なんか見たことがある風景？そういえば遠い昔、兄はこのすぐ近くに住んでいたことを思い出しました。事情があって疎遠になっていましたが、河原を散策する家族を見ていたら、当時の記憶がよみがえってきました。

## 自己紹介

還暦を迎えた時に、定年後の人生をどう過ごしたいかを考え、趣味として写真を選びました。
選んだ理由は
・一人でも楽しめる・健康に良い・PCスキルを高められる
でしたが、始めた結果
・投稿されている会員の皆さんからいろいろな学びがある・共通の趣味の仲間が増え、情報交換が出来る
・一人では行けない撮影地にご一緒できる・好奇心が旺盛になるなど、嬉しいことづくめです。
これからも楽しくを第一に、１日１枚PHOTODAYS投稿を続けていきたいと思います。

## 展示会に向けて

日本で最もステータス性が高いといわれる富士フイルムギャラリーでの展示は憧れです。
ダメ元と思い応募してみたら審査に通過との連絡をいただき嬉しいです。
コンテストなどには挑戦していませんが、地道にコツコツ楽しみながら続けることをモットーに写真ライフを続けています。

# 「四季桜と紅葉」

河野哲　ぱぴ　愛知県

## 作品解説

朝日を浴びた四季桜と紅葉。そこに立ち込めてきた朝靄も一役買ってくれたところを写し込めました。
夜明け前から待機してこの瞬間を待ちました。ゆっくり、夜が明けて行く中で朝日が四季桜を照らし、紅葉を浮き上がらせ、その後に朝靄が出てきた時には心踊りました。夢中でシャッターを切りまくった事、今でも鮮明に思い出します。

## 自己紹介

風景、星景を主に撮っています。
朝、昼、夜あらゆる時間帯の風景のいい瞬間を想像して撮影計画を立てて、一番いい
時間帯を探して撮り歩きをしています。

## 展示会に向けて

数ある優秀な応募作品の中で前回に続いて、連続で選ばれたことを光栄に思います。
これからもいい写真が撮れるように精進します。
この作品を見て少しでも感動してくれる方がいたら嬉しいです。

# 「江戸前漁業の桟橋」

野村るみ子　ruri　東京都

## 作品解説

多摩川の河口近くに通称「羽田船溜まり」と呼ばれる一角があります。羽田空港のすぐ近くの市街地に、廃材で作られたような桟橋や作業小屋が川面に並ぶ様は、まるでここだけが昭和にタイムスリップしたかのようです。同じ東京の川に近い町で育った私は、この場所に立つと幼い日の懐かしい記憶が蘇ってきます。昨年「身近な風景Ⅰ」の受講にあたり、東京最後の漁師町と言われるこの地を撮影地に選び、度々訪れるようになりました。通い続けるうちに知った地域の歴史や文化も踏まえ、現役の漁業用桟橋を地域の記録という意味も含めて撮りたいと考えました。そんな折、早朝に漁船に乗り込む漁師さんと出会い、出航を撮らせて頂くチャンスに恵まれました。撮影にあたっては、人の営みを反映させることと被写体を生かす光を意識しました。

## 自己紹介

旅が好きで、旅先で出会った感動を残したいと写真を撮り始めたのが十余年前。それ以来すっかり写真の面白さにハマり、今では写真を撮りたくて旅に出かけるようになりました。あまりジャンルにこだわりなく撮っていますが、美しい写真よりも、いろいろな想像が湧いてくるような物語性のある写真を撮りたいと考えています。また、「身近な風景Ⅰ」の受講がきっかけで、昨年来、地元大田区のある地域をテーマとして、様々な角度からの作品作りにも取り組んでいます。

## 展示会に向けて

作品に対して、自分とは違う視点や感性でのご意見やご感想を伺えることは、写真展の醍醐味であり、とても勉強になります。多くの方にご来場いただき、率直なご感想をお聞かせいただければ幸いです。

# 「見えない花火」

石黒敏正　空次郎　新潟県

## 作品解説

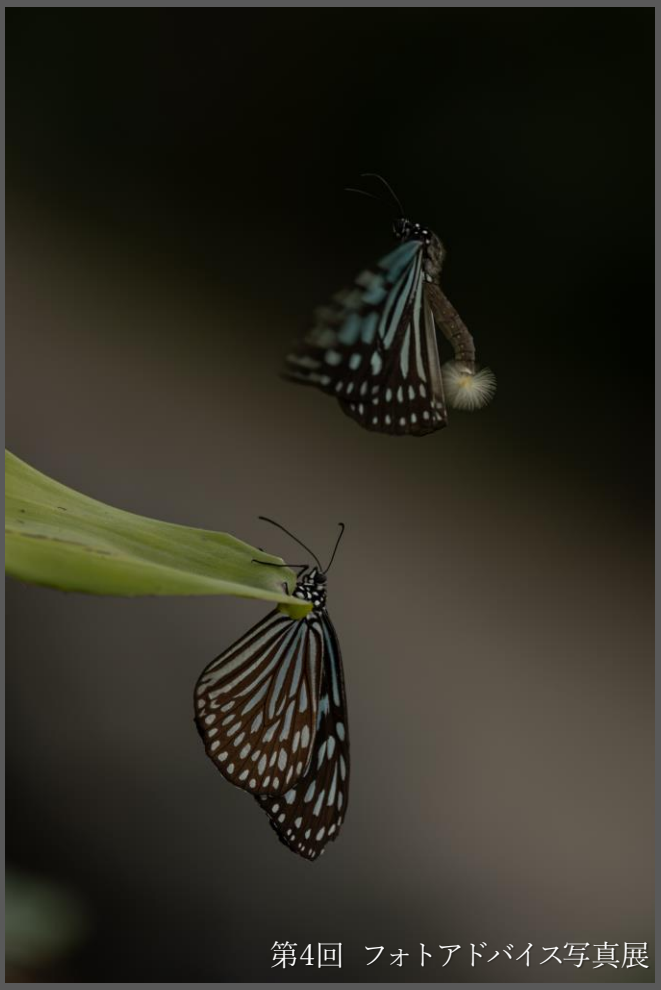
近隣の「わしままつり」の花火を「福田式撮影術」で撮りました。「福田式」は「花火が開いたタイミングでピントをぼかし、閉じるタイミングでピントを合わせる。」と文字にすると簡単そうですが、やってみるとこれがなかなか難しい。コロナでの中断もありましたが、トライしてから5年ほどかかりました。
写真でしか見られない、人の目では「見えない花火」です。

## 自己紹介

PDに参加して8年ほどになります。
地元で写真を学ぶ環境がなく、フォトアドバイスで基礎から勉強させていただきました。故五海先生や中村先生のワークショップを参加できたのもフォトアドバイスのおかげです。2016年8月4日から連続投稿が2,800枚以上継続中で、それが毎日の日課になっております。縁があって地元のプロ歌手の奈々さんの専属カメラマンを拝命してライブやポトレを撮っております。花も自宅の庭や近くの植物園で撮っていますが、「その時その場所にいる。」のが一番大切な風景写真を次の課題にしたいと思います。

## 展示会に向けて

ありがたいことに第1回、第2回に続き、第4回の今回も選出していただき感謝申し上げます。
東京会場の展示会には新潟からなので長時間の滞在はできませんが、たくさんの仲間の人たちと交流したいと思っています。




# 「求愛」

岡崎有記　Yuppy　兵庫県

## 作品解説

この作品は今年の２月に伊丹市の昆虫館で撮影したものです。伊丹市昆虫館のチョウ温室には約１４種のチョウが放たれ、咲きほこる花の周りを優雅にチョウたちが乱舞する姿が見られます。この日もワクワクしながら撮影を楽しんでいると、リュウキュウアサギマダラの求愛する姿が見られました。幸運にもホバリングが長かったので、写真に収めることができました。学芸員の方に伺ったところ、オスの腹端から出ている綿毛状のものは「ヘアペンシル」と呼ばれる性フェロモンを分泌する器官で、求愛時に活用すると教えていただきました。タテハチョウ科マダラチョウ亜科などのチョウが持っている器官とのことで、生命の神秘と不思議を感じました。

## 自己紹介

生き物たちの『一瞬の輝き』を撮ることをライフワークにしています。
私が生き物撮影を始めたのは、１４年程前に加藤講師が関わられていたドルフィンスイム練習会に参加したのがきっかけでした。初めて御蔵島に行き、息をするのも忘れるくらいイルカと遊んだ時、この瞬間を忘れたくないと夢中でシャッターを切ったのを今でも覚えています。同年行われたイベントで加藤講師の作品を拝見し、優しく生命力に溢れた世界に憧れて以来、ずっと紀南の生き物を中心に撮影してきました。
2022年、母親になった私は今まで以上に『今を生きる命』を撮りたいと思い、本格的に写真を学びたくフォトアドバイスに入会しました。今後も四季を感じながら愛おしい命たちを撮り続けたいと思います。

## 展示会に向けて

フォトアドバイス写真展、初参加になります。
フォトアドバイス講師の先生方、メンバーの皆様、いつも学びや刺激をありがとうございます。
大阪会場にて皆様とお会いできるのを楽しみにしています。

# 「帰り路」

若林紀男　ぽんこつ父ちゃん　長野県

## 作品解説

神社への参拝を終えて足元に気を付けながら帰る老夫婦。
木漏れ日の感じと、踏み固められて溶けかかった雪の表情が面白いと思って撮影しました。
デジタルでモノクロ表現は初めての経験でしたが、モノクロ講座を通してモノクロの階調表現の方法、
重要さを学ぶ事が出来ました。

## 自己紹介

デジタル一眼を初めて10年になりました。
昨年サラリーマン生活を辞めて写真に費やせる時間が増えました。
姨捨棚田で米を作りながら、地元の風景を中心に撮影しています。
自由に出来る時間が増えた事で、今までより遠出の撮影もできるようになりました。

## 展示会に向けて

モノクロ講座を通して階調の大切さを勉強することが出来ました。
講座の成果がフォトアドバイス写真展の出品作品に選出された事を嬉しく思います。
普段は直接お会い出来ないメンバーの方々と、会場でお会いできるのを楽しみにしています。

# 「海の胎動」

山崎聡　ＰＯＭ　静岡県

## 作品解説

フォトアドバイス写真実践講座のモノクロ講座にて提出した写真です。
講師の宇井眞紀子先生の添削ご指導の下に写真を選び、モノクロ現像しました。写真は見る人に伝えるものと言いますが、私はせめて自分自身の感情が強烈に揺さぶられている状況でそれを撮影すること以外、人へ伝えようとする撮影方法を知りません。
地元では強風が吹くことで知られている浜ですが、当日は波頭が後ろに砕けるように飛ばされて、海面が飛沫で白く覆われるほどの強風が吹いていました。その特別な条件を求めて撮影に行きました。自然に意思はないと知っていながら、そこから生まれてくるものには、希望や幸せを望まずにはいられない。この撮影の時に感じていたのは、海への敬意、憧れ、感動と恐怖でした。タイトルは宇井先生から「海が内胞する生命力の様なものを感じる」というコメントを頂き、考案しました。

## 自己紹介

デジタル一眼レフを持ったのは10年以上前になります。仕事は写真とは無関係に忙しく、シャッターを切る回数は多くありません。それでもいい写真を撮りたい、いい写真て何？なぜ私の写真は評価されないのか？楽しく撮ることができない、何故かつまらない時間が長かったように思います。デジタルの進歩、ＳＮＳと写真、様々な解釈、定義の変化のなかで、自身が勝手に振り回されていたようです。それでも、今は良き経験を積んだと思います。

## 展示会に向けて

こんな素晴らしい写真展に参加することができて、写真を続けていて本当に良かったと思います。
フォトアドバイスの皆様、講師の先生方、ご来場の皆様へ、心より感謝申し上げます。

# 「花から花へ」

菅哲行　ろくろく36　愛媛県

## 作品解説

蜜を求めて飛び回るメジロ　偶然にも羽根を広げての飛び出しを撮ることができました。

## 自己紹介

一人で楽しく撮っています。
皆さんよろしくお願いいたします。

## 展示会に向けて

初めて選ばれての展示になります。
遠方に成りますので会場に行けるかわかりませんが、お会いできることを楽しみにしています。

# 「陰陽」

菅原博文　清之介　岩手県

## 作品解説

初めての福島県観音沼。数回来ている方によれば紅葉にはまだ少し早く、かつこの年の猛暑で沼の水位が低下し、撮影条件として厳しいというものでした。見た感じは確かにその通り。漠然と撮っていたらこの遠征は失敗に終わる。とにかく観察だ。そう心がけ、ゆっくりと撮影を始めた。僅か2~300mの距離を歩き始めて数時間、水面から何本も朽木が飛び出している場に出会った。おそらく、例年並みの水位なら水面下に隠れていたんじゃないだろうか。
その時ふいに太陽の光が射し、それまでくすんでいた秋の色が朽木の周りの水面に映りだしたのだ。
「これだ！」デジタル一眼を始めて８年目の秋。ようやく手応えを感じる一枚が撮れた瞬間だった。

## 自己紹介

東北生まれの東北育ち。
生粋の田舎人です。が、サバイバルは不得意。東北地方の風景を中心に撮影していますが、地元岩手県南を撮り歩く「撮時記（とじき）」や生まれ故郷（とは言っても、ほぼ記憶無し）の福島県を撮影している「四季彩々」のふたつをシリーズ化して撮り貯めています。ここ最近では、岩手・青森・秋田の北東北三県を渡り歩く「北東北紀行」も仲間入りし、いつかこれらのシリーズで個展や写真集の出版を目標に励んでいます。

## 展示会に向けて

地方にいながら、都市部とのハンディを気にせず受講できる実践講座は有意義そのもの。
だって、こうして私の写真が選出されてこの場で展示されているのが何よりの証明です。

# 「一日の終わりに」

猪口寛　ひげかん　佐賀県

## 作品解説

夕暮れ時、家路につく人たち・会社に戻る人たち・これから仕事に向かう人たち。色々な人たちの思いを乗せて走る車の風景を、自分自身の一日の終わりとして作品といたしました。道路標識がない写真も撮りましたがきれいだけど生活感がなく、標識まで映り込んだ風景を選びました。自分の心の片隅にある思い出の一端なのでしょう。なんとなく懐かしい、どこかで見たような風景だなあとも思いました。
日ごろ何気なく毎日通っている道ですが、望遠レンズで圧縮させるとこんなにアップダウンがあったのかなとある意味感動、圧縮効果がうまく出せたと思います。道路が夕焼けに照らされていく色合いの変化が新鮮な驚きでもありました。

## 自己紹介

写真が好きではありましたが、年に何回かしか写真撮影をしないような現実もありました。
カメラはずっとキャノンを使ってきました。今はR6とR50を主に使っています。たまにリコーデジタルIVやLEICAQ-Pも使います。ちょっとSONYにも興味がありα100も買ってしまいました。LEICAQ-P以外は全部中古カメラです。
今でも仕事に追われていて、なかなか作品作りをする時間というものが取れません。それでも月に何回かはカメラを手にするようになったのでちょっとはましな写真が撮れるようにはなってきました。
多くの先輩フォトグラファーたちに感銘を受けつつ研鑽を続けていきたいと思います。

## 展示会に向けて

私の写真を多くの人に見ていただける機会を与えていただき感謝しています。

# 「葵、頑張れ～！」

鑓田龍郎　ハナ　群馬県

## 作品解説

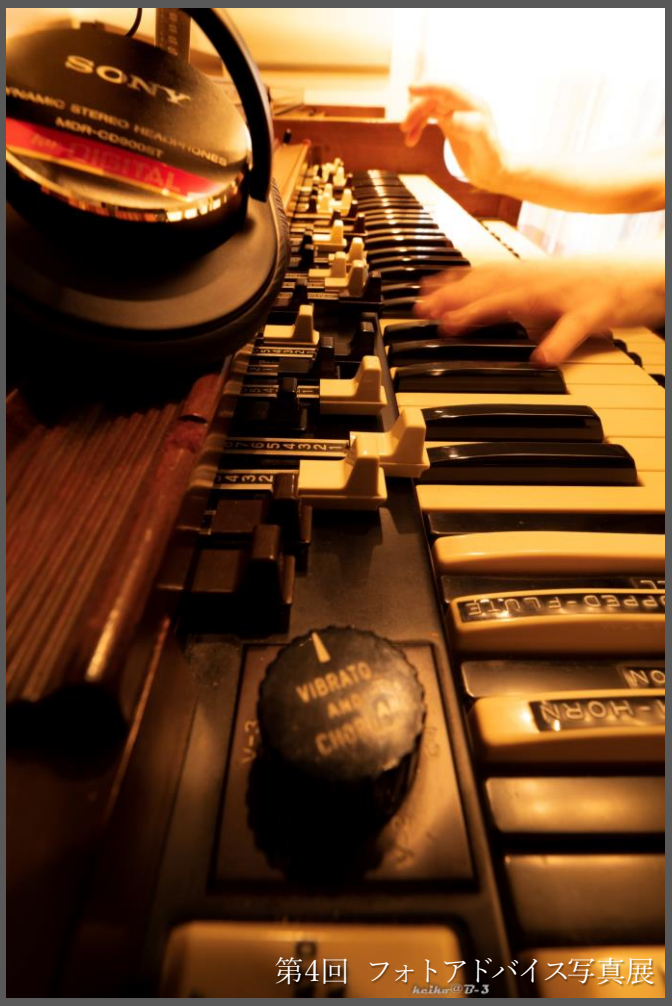
フォトアドバイス実践講座「新・花撮影講座」の提出作品。講座の中で標準単焦点レンズに中間リングを装着して近接撮影する方法を学びました。その撮影方法で得られる柔らかな描写が気に入り、作品作りに取り入れたいと思いました。
本作はバラ園へ出掛けた際、娘と同じ名前の薔薇（あおい）と出会い、試行錯誤して撮影した一枚です。花の選定、ピント位置、アングル、画面構成、背景の風合い、露出など、ベストショットを探りながら何枚もシャッターを切って追い込みました。タイトルは社会人一年生の娘へエールを送りたい！との思いを込めました。

## 自己紹介

写真を始める前はクラシックコンサート通いが趣味でした。そこで知り合った方から見せられた霧風景の写真に感銘を受け、自分もそのような風景を見てみたいと思ったことがきっかけで写真を始めました。写真の知識は主にフォトアドバイスの教材や実践講座、WS等から学びました。写真を始めて今年で8年、主に地元の山や公園で風景、鳥、花など撮っていますが撮りたいと感じたものは何でも撮っています。今後も様々な被写体にチャレンジして撮影スキルや表現の幅を向上させていきたいです。

## 展示会に向けて

フォトアドバイス写真展には幸運にも第1回開催から毎回選出していただき、心より感謝申し上げます。
皆様とお会いできることを楽しみにしています。




# 「愛機　B-3　私の分身」

浜田恵子　ハマコ　兵庫県

## 作品解説

この作品の写真の楽器（電気オルガン）ですが、アメリカで作られた、オルガンの王道、ハモンドオルガンB-3（ビースリー）です。
この楽器は横から撮影しています。引っ張るバーがありますがこれは、教会のパイプオルガンのバーと同じ意味を持っています。
音を出す為、音の強弱を操作するものです。アメリカの教会にある大きなパイプオルガンをジャズ用の楽器としまして作られました。
中は真空管が並び圧巻です。200kgあります。この貴重なB-3を初めて見て音を聞いた時、魂を奪われこのB-3奏者になると決めました。
父は、一生やり遂げなさいと言って日本最後の新品を買ってくれました。そんな父への熱い思いをこめて撮った作品です。そして2台並ぶB-3を正面から撮らず、広角レンズで、横から撮影致しました。2台あるとは誰も気が付かない様です。広角レンズで私の愛しいオルガンはこの様に写りました。
昔、実家にB-3を置いていた時、リサイタル前日、部屋のリフォームの為、B-3を入れた入口は壁になっており夜中死ぬ思いで、父と2人でオルガンを出すための穴を開けるため壁をハンマーでたたき壊し翌朝、無事出せた必死な思いがあります。

## 自己紹介

私は5歳からピアノを始め、そして大阪音大で声楽を専攻。このハモンドオルガンに出逢ってから、20歳でプロに。22歳で初リサイタル。
ジャズバンドとの共演や、TVラジオ生演奏、現在も5人編成のジャズオルガンバンドとしまして定期的にライブ等に忙しくしております。
そして昔から好きなカメラが棚の奥から見つかり、又、カメラをさわる様に。一眼からミラーレスへ。今のカメラはNikonのZ9、
レンズはマクロから600mmまで、使っています。魂を感じる被写体に出逢うとシャッターを切っています。このままいくと肩書は音楽家、演奏家の次に写真家にと夢を追っています。毎日カメラを触らないと落ち着かない日々です。楽しくて仕方ありません。

## 展示会に向けて

この素晴らしい展示会に出展させて頂けるとは夢にも思ってもいませんでした。フォトアドバイスでお世話になっております。
写真家の中村路人先生には感謝で一杯です。そして、今回お世話になります富士フイルム様　フォトアドバイス社の先生方スタッフ様、
全ての関係者の皆様には心より感謝申し上げます。どうぞ宜しくお願いいたします。

# 「ホットな唇に咲く」

薦田佳郎　きんひばり　兵庫県

## 作品解説

京都府立植物園にて撮影。
花の名前札に、「サイコトリア・ペピギアマ」とあり、
別名の一つが「ホット・リップス」とあったので、題名のヒントにいただきました。

## 自己紹介

あるがままに心動かされるものに、シャッターがきれたらと思っています。
どうかよろしくお願いいたします。
鳴く虫にも興味があり、初夏の湿原で澄んだ声を聞かせてくれる小さなコオロギの「キンヒバリ」を
ニックネームにしています。

## 展示会に向けて

本展示会を通して、「フォトアドバイス」の魅力がより多くの人に伝わることを念じています。

# 「　ふるさとよろ図絵（煙）」

酒井保　かい　岐阜県

## 作品解説

冬の朝、枯草を燃やす煙が陽光に照らされ美しい光景を作り出していました。田舎では日常的にみられる光景で無風の早朝または夕暮れ時によく見られる光景です。煙は透過光で撮影することで光っているように見えて美しいので、それが強調されるように露出を調整して撮影しました。また、冬場で色彩に乏しく人の営みが落ち着いている中での煙は一段と引き立ち、陽光の演出で田舎の風景と美しく調和していると思いました。

## 自己紹介

岐阜県東部にて地元の風景撮影をライフワークとして活動しています。
人の営みと自然が調和した美しさを追及しながら、出張撮影の請負なども行っています。
地元の田舎で美しい光景を探して撮影することで、風光明媚な名所や映えスポットなどの美しい風景を探すのではなく、風景の中に美しい光景を探すことを学び、楽しんでいます。

## 展示会に向けて

第１回目から続けて参加させていただいております。
田舎ならではの美しい光景を楽しんでいただけたら幸甚です。

# 「パワフルママ」

矢崎義国　Yossy 25　長野県

## 作品解説

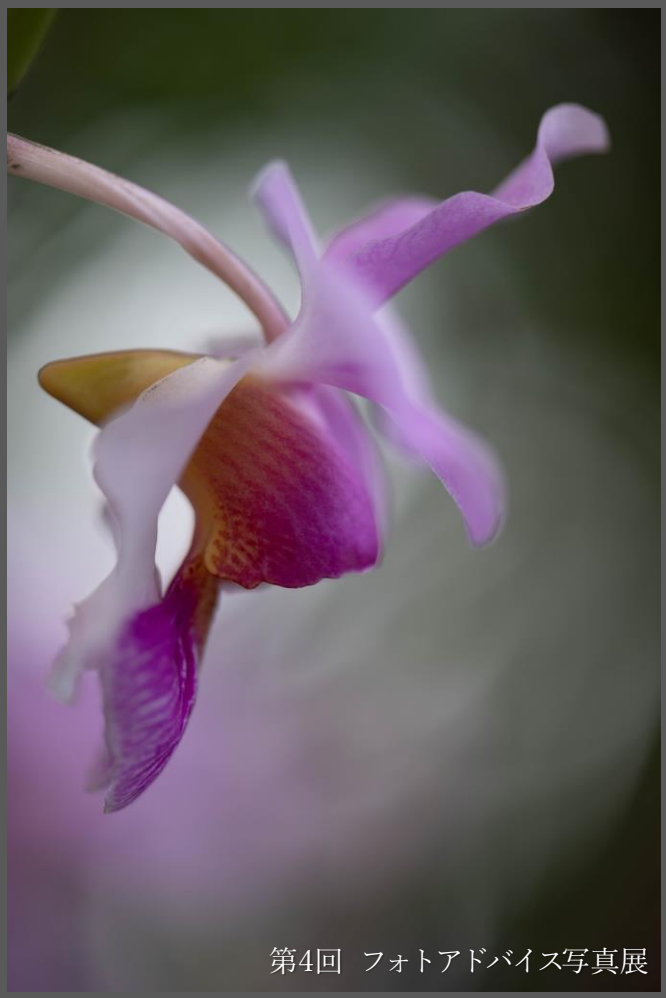
このリスは、５匹のリスを子育て中のパワフルママ。とにかく食欲は凄く、たくさんのクルミを食べています。
通常リスは２～５匹の子リスを育てますが、５匹を見かける機会は稀です。従って、たくさん食べなければ５匹を育てることが出来ません。この瞬間は、クルミの外皮（外果皮）を剥がしているところです。剥がした外皮を放り出した瞬間を狙いました。それから、固い殻を歯で削り、２つに割るか穴を開けて中味を食べます。さらには、食べる以外にも冬に備えてクルミを地中に埋め貯食します。また、その間に子リスの成長に合わせ新しい巣を作ります。
雄は全く子育てをしないので、そんなパワフルママに感動します。

## 自己紹介

写真撮影を始めたのは、子どもの成長を記録するためでした。当然、誰かに教わったことは無く自己流です。
子どもが大きくなる頃には、仕事も忙しく殆ど中断状態。再開したのは、現役を引退してからでした。
写真クラブにも入っていましたが、無料メールが目に留まったことから、ここに参加することになりました。
最初は、風景を中心に撮影していましたが、２０１７年末から６年間にわたりニホンリスを撮影してきました。
しかし、昨年夏に腰部脊柱管狭窄症を発病して、リスの撮影は当面断念しました。

## 展示会に向けて

写真展の参加は今回で４回目となります。最初は、マクロ作品でしたが、２回目以降はニホンリスです。
この作品に対する宇井先生のコメントがとても嬉しかったです。リスの一瞬の姿を見ていただきたいと思います。




# 「パピリオナンテ・テレス」

東田章　AKI64　大阪府

## 作品解説

植物園の温室で撮影した蘭の一種です。
この花の複雑な形と、色彩の面白さを引き出すためのアングルを探り、
背景も複雑に重なった玉ボケが後光のようになってくれました。
2023年花撮影講座の提出作品です。

## 自己紹介

子供の頃は父からもらったハーフサイズのオリンパスペンで電車や風景を撮っていましたが、その後完全に写真からは遠ざかっていました。最近になり、再びカメラを触るようになりました。フォトデイズに入会して講座を受けてから花撮影をするようになり、以後は花と風景、街角スナップ、時々電車という感じで撮影しています。
とはいえ、実際には仕事が忙しいので、撮影はせいぜい月に1～2回というのが実態で、なかなかうまくはなりません。

## 展示会に向けて

富士フィルムフォトサロンは今までフォトアドバイス写真展などで「見に」行く場所でした。
今回、写真展に参加できることになり、自分の写真があの空間でどのように見えるのか、今から楽しみです。

# 「Night Landing」

藤田英治　藤田＠淡海　滋賀県

## 作品解説

2015年受講の写真実践講座 標準レンズから現在まで「千里川土手」で撮影しています。
この場所でしか撮影できない夜の飛行機撮影が魅力で、仲間とのフォト活で楽しんでいます。
伊丹空港への着陸機JAL_B787を三脚固定の連写した3枚を比較明コンポジット。

## 自己紹介

1948年生まれの「後期高齢者」です。
デジタル一眼を買った機会にセミナーＤＶＤを購入し、2014年夏「ＰＨＯＴＯＤＡＹＳ」に参加しました。
2015年3月より関西におけるＷＳのサポートスタッフをしておりましたが、2022年9月に3回目の肝細胞癌切除手術となり、術後は体力面などからサポートスタッフは休止。写真実践講座は18講座を受講し撮影対象はいわゆる「何でも屋」です。特にフォト活で皆さんとご一緒できる日を楽しみにしています。

## 展示会に向けて

皆様と「写真」は、今しかない出会いと思っています。一人でも多くの方と、お会いできることを楽しみにしております。これからも持病と向き合いながら1日1日を大切に写真を楽しみたいと思っています。

# 「漣の詩（うた）」

小林 宏一　koko　東京都

## 作品解説

日の出前の静寂に包まれた浜名湖湖畔。時折魚が跳ねる音だけが響く静けさの中、漁に出る船が通り過ぎると湖面に小さな漣が広がります。朝の光に照らされた漣は、一瞬一瞬異なる表情を見せ、静かに岸へと打ち寄せます。
この作品は、自然が描く唯一無二の波模様と静寂の美しさを切り撮った一枚です。

## 自己紹介

心に留まったもの、例えば旅先で出会った感動的な風景や、日常の中のふとした一瞬といった、
自分が感じた非日常のかけらを伝えることができる写真を撮れるようになれたらと思っています。

## 展示会に向けて

本日は第4回フォトデイズ写真展にお越しいただき誠にありがとうございます。
皆様とこの瞬間を共有できることを大変嬉しく思います。撮影した作品をお楽しみいただければ幸いです。

# 「悠久の調べ」

川西哲詩　テッチャン　大阪府

## 作品解説

中村先生の「マクロレンズ講座」として提出作品を推薦頂きまして出展させていただきました。
講座では「新花講座」で教えて頂いたオールドレンズに中間リングを使った方法で、マクロレンズとして受講させていただきました。バブルボケを生かしてオルゴールのキラリと光る「ピン（針）を撮りたい」というのが私のねらいでした。
バブルボケの面白さが描写出来始めた頃、中村先生から「オルゴールの動きがないなぁ」との指摘でシリンダーの回転する様子をこの写真に加えるという課題を頂きました。「難しい！」と思いましたが、確かにオルゴールはシリンダーが回転してこそ、音が出ますので、その音を表現するには「動きを表現しなくては」と言う先生のアイデアに挑戦しました。

## 自己紹介

テッチャン事、川西哲詩です。PDは2020年5月入会で4年が過ぎました。カメラとの出会いは、中学生の時に親父が使っていたカメラを借りて撮るようになったのが始まりです。高校生の時には、フィルムの現像からプリントの引き伸しまでを教えてもらい、大学時代は、写真のやりたさにアルバイトに明け暮れ、カメラや現像道具・引き伸し機を手に入れて独学でやっていました。
社会人になっても銀塩写真をやっていましたが、会社の後輩に勧められデジタルカメラへ転向して数十年、ここで始めてPDと出会いました。「真実を写す道具としての写真機」そう信じてやっていた自分を見事に打ち崩されたその瞬間でもありました。
以降、ゼロからの再出発で楽しみながら学んでいる今日この頃です。

## 展示会に向けて

第三回に引き続き、今回もオルゴールをテーマに出展させて頂きました。前回よりも古きオルゴールの響きを感じて頂けますでしょうか？今回は「動き」も取り入れ作品を仕上げさせていただきました。
ご指導頂いています諸先生や先輩、仲間達と一緒に写真の楽しみを続けていけることを大変幸せな事だと感謝しております。